

## 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐伯育郎

### 1 はじめに

小学校教員志望者が、実際の教育現場に出て行う4週間（20日間）の実習である。これまでの教育実習Ⅶや教育実習Ⅰにおける学びを生かして、自分で実際の授業を担当する。この実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と小学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学修課題を明らかにすることを目的とする。

### 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	7月～8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前説明会に参加し、教育実習Ⅱ・Ⅲの意義、目的、心構え、手続き等を再確認する。教育実習記録を受け取り、記述・提出方法について理解する。</li> <li>・実習校への事前訪問により、指導担当教諭などから、配属学年、配属学級の児童の実態や、教育実習の全体計画、実習の事前課題などを確認する。教育実習出勤簿や教育実習評価票などについて説明し、実習校へ提出する。</li> </ul>
本実習 20日間 (学外)	9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の内容は、実習校により計画される。実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、小学校教諭の職務等についての理解を深める。</li> <li>・主な学修課題として、①教育の理論と実践の一体化②基本的教育技術の習得③発達期にある子どもの理解④教育的人間関係における相互作用についての学習⑤教育者としての自覚の高揚、が挙げられる。観察・参加はもとより、実習授業に関しても万全の準備をした上で意欲的・主体的に取り組む。</li> </ul>
事後学修 (学内)	10月～1月  平成28年度は 12月2・8・13 日5コマに実 施。今年度の タイトルは“自 分の夢へ34！ (さあしゅっぱ つ)”	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の教育実習を振り返り、実習校から返却された教育実習記録を読み返し、まとめ直す。再度、学生サポート課に提出する。</li> <li>・教育実習記録をもとに実習校での学びを振り返り、教育実習報告会用のレジュメを作成する。提出されたレジュメを印刷・製本し、教育実習報告書を作成する。</li> <li>・教育実習実行委員会を中心に、教育実習報告会を実施する。</li> <li>・実習報告会では、児童理解の実態とその手だて、真似したい指導法とその意義、自身の課題と課題に対する考え方など、学生が主体的に設定したテーマに基づき、小グループに分かれて討論・発表を行う。他学年の学生や教員も参加し、議論に加わる。</li> <li>・報告会終了後、振り返り冊子を作成・発行する。</li> </ul>

### 3 活動の概要

(1) 実習授業・研究授業の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

教科領域	対象	単元・題材名
国語	3年生	サーカスのライオン
算数	5年生	分数のわり算
理科	6年生	てこのはたらき
社会	4年生	きょう土を開く
音楽	2年生	おまつりの音楽
図画工作	6年生	12年後のわたし
体育	1年生	的当てゲーム
道徳	3年生	ぬれた本
外国語	6年生	What color do you like?
言語数理運用科	6年生	私たちの広島東洋カーブ

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

・配属クラスの学級経営

担任の先生は、褒めて児童の行動を価値づけていくことを大切にしておられた。授業準備が遅い児童がいるときには、その児童を叱るのではなく準備が早い児童を褒めることによって、遅い児童がそれを見習って早く準備するような声掛けをされていた。先生が児童を褒めるだけでなく、帰りの会では「言葉のシャワー」の時間を設けて、掲示してある帳面に児童が書き込んだ1日のよかったことを当番が発表したり、友だちのよい行動や友だちからしてもらってうれしかったことを児童が発表したりするといった児童同士で褒め合う時間も設けられていた。（配属：第3学年）

・真似したい実習校の先生方の指導法・工夫とその理由

担任の先生は、普段は優しい口調で明るいトーンで話される。注意する時や叱る時は声を低くしておられ、メリハリがあった。声色が変わるだけで大幅に印象が変わると感じたため、私も真似したいと思った。また、授業の際は、特に算数において、生活のどの場面で使えるのかということを話したり考えさせたりする中で、学んだことが身近な生活で生かせるように指導しておられた。さらに、同じような考えを比較して共通点と相違点を見つけることを大事におられ、より理解が深まると思った。（配属：第6学年）

### 4 成果と課題

昨年度の課題としては、事前指導において学生の履修登録の手続きミスが多かったことが挙げられたが、今年度に関してはそういった問題は少なかった。

実習授業の時間数は通常10時間程度のところ、3時間から18時間までの差があった。

教育実習記録については、例年通り担当教員2名で閲覧・確認を行った。充実した内容が見られた反面、「教育実習のまとめ」の記述に事前説明会で配付した資料と似たものも散見された。あくまでも参考例として卒業生のものを配付したのだが、実習最終日の多忙さ故か、安易に写してしまったのだろう。教育実習報告書の挨拶文や成績開示の際にも、担当教員2名から学生へ注意を促した。

実習報告会実行委員は、昨年度と同様準備が丁寧であり、レジュメ作成の際にはゼミ毎の締切を設

定するなど、実にきめ細かな運営を行った。結果、実習報告書の内容は充実していたが、ページ番号が振られていなかったので、読みやすさという点については改善していきたい。

実習報告会は例年通り3コマ実施した。討議・質疑応答は1回目から質の高い内容であり、下級生からの質問も昨年度よりも多く出た。2回目はやや質疑の時間が少なかったが、その反省を受けて3回目の内容を討論中心へと改善させた。臨機応変な対応ができる実行委員であった。今後も、学生の主体性を大切にしながら、よりよい方向へと支援していきたいと考える。